

HBG 版 ティーチングポートフォリオ(R5 改定版)

1.基本情報	名前	石尾 はつみ
	学部 学科	短期大学 食物栄養学科
	職名	准教授
	在籍年数	5 年目
	教育年数	16 年目
	専門領域	栄養学、健康科学
2.教育の活動 最近 3 年間の担当科目	科目名／開講期／受講者数／備考 給食計画・実務論／1 年次前期／50 名／栄養士必修科目 給食計画・実務論演習／1 年次前期／50 名／栄養士必修科目 給食計画・実務論実習／1 年次後期／50 名／栄養士必修科目 ライフステージの栄養学／1 年次後期／50 名／必修科目 給食実務校外実習／2 年次通年／50 名／栄養士必修科目 栄養演習 I／2 年次前期／50 名／選択科目 病院実習／2 年次前期／選択科目 スポーツ栄養学／2 年次後期／選択科目 セミナー I／1 年次前期／必修科目 セミナー II／1 年次後期／必修科目 卒業研究／2 年次通年／必修科目	
3.教育の理念・目的、方法 なぜ行っているのか(自らの信念、価値観、目指すもの等)、教員としての目標、学生に求めること(期待)等 共通する方法や方針、独自の工夫等	専門科目の範囲が広いとため、基礎的な知識と応用的実践力を身につけるための科目として、学生が興味をもって取り組めるような教育を目標とし、学生には、自ら考えて行動できるようになることを期待している。 専門科目では、栄養士として必要な知識や技術を自分の生活に活用できる力を身に付け成長することを期待している。 教科書への書き込み部分の明示をすることでポイントを理解し、メモを取る(板書をする)ことができるようにし、不足部分の資料配付、適宜課題や小テストを提示して理解と興味を促すよう工夫している。 実践につながるような課題を提示するよう工夫している。	
4.教育改善と成果 学内外での教育活動、委員会活動、FD 活動で行ってきた改善及びその成果	授業評価を参考に、授業内容・方法を改善している。学内 FD 研修会に積極的に参加している。 授業の公開、公開授業への参加を通して、新しい手法や授業改善に取り組んでいる。 FD 活動の一環として DVD 教材の作成を行い、1 年次科目および 2 年次校外実務実習において事前学習教材として活用した。 FD 活動報告書に授業の実践例を報告した。	
5.教育実践(資料等)	C-Learning を活用した資料保存(追加資料などを含む)。	

<p>シラバス、テキスト、配付物、小テスト、web の活用 (C-Learning を含む)、アクティブラーニング実践報告等</p>	<p>指定テキストのポイントを明示した資料を C-Learning 教材倉庫に保存して公開している。テキストだけでなく厚生労働省等が作成する資料について、必要なもの、最新情報、学生が興味を持っているものについて配付し、C-Learning 教材倉庫に保存していつでも見返せるようにしている。</p> <p>指定テキストがない科目では、指定テキストにかわり ppt 資料を配付している。この資料は空白部分を設け、学生が授業中にポイントを理解しながら書き込んで、自分で完成させる様式としている。</p> <p>学生による調べ学習、発表の機会を設けるようにしている。</p> <p>C-Learning アンケート機能を活用した振り返り学修を実施し、学生からの疑問・質問等を次回授業で受講者全員で共有している。</p>
<p>6. 授業改善の取組み 前年度授業評価アンケート結果から担当授業における自己点検評価及び授業改善計画等</p>	<p>担当授業の満足度は、4.0 以上であり、個人目標は達成した。</p> <p>C-Learning アンケート機能を活用した疑問・質問等を次回授業時に全体にフィードバックする取組みについて、自分だけでは気づけない点を振り返ることができるなど、受講生全体にメリットがあると考えられる。</p> <p>学生の興味や、疑問、理解が難しい点等を共有しながら、より良い授業となるよう取り組みたい。</p> <p>学生の自学修をどのように促していくか、今後の課題として取り組みたい。</p>
<p>7. 今後の目標 目標に対する今後の自分の課題、解決方法、計画等</p>	<p>科目の範囲の広さから、学生が興味を持ちにくい部分をどのように解消・展開していくか、理解度にばらつきが大きい場合のフォローの方法について検討していきたい。</p>

HBG 版 ティーチングポートフォリオ(R5 改定版)

1.基本情報	名前	江坂 美佐子
	学部 学科	広島文化学園短期大学 食物栄養学科
	職名	准教授
	在籍年数	18 年
	教育年数	18 年
	専門領域	栄養教育
2.教育の活動 最近 3 年間の担当科目	科目名／開講期／受講者数／備考 栄養指導総論／1 年次前期／55 名／必須科目 栄養指導各論／1 年次後期／52 名／必須科目 ライフステージの栄養学実習／2 年次前期／39 名／選択科目 栄養指導各論実習Ⅱ／2 年次後期／38 名／選択科目 給食実務校外実習／2 年次前期／39 名／選択科目 老人ホーム実習／2 年次前期／1 名／選択科目 栄養演習Ⅰ／2 年次前期／39 名／選択科目 栄養演習Ⅱ／2 年次後期／39 名／選択科目 セミナーⅠ・Ⅱ／1 年次前期・後期／11 名／必須科目 卒業研究／2 年次前期・後期／12 名／必須科目	
3.教育の理念・目的、方法 なぜ行っているのか(自らの信念、価値観、目指すもの等)、教員としての目標、学生に求めること(期待)等 共通する方法や方針、独自の工夫等	<p>本学科の学生は、調理や食べることが好き、健康に関心があるが、学力や技術には自信がない学生もいる。「調理のできる栄養士になる」を実現するために、栄養士として必要な専門知識と技術を身につけ、自分なりに成長し、入学時より自信をつけて卒業させたい。また、人々の健康づくりに貢献する姿勢と学び続ける意欲をもつ人材になってほしい。そのために、次のことを行っている</p> <p>【共通する方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を指定し、教科書の内容としっかり説明する ・初回にシラバスに授業日を追加した資料を配付し丁寧に説明する ・教科書に対応した PowerPoint を作成し、一部を配付する ・授業の PowerPoint 資料を PDF 化して、C-Learning 教材倉庫に保存、公開する ・シラバスの一部変更などは随時説明し了解を得る ・C-Learning のアンケート、小テスト、レポートなどを必要に応じて適宜使用し、授業の振り返りをする ・授業の冒頭に前回の振り返りを行う ・グループワークの実施 ・身近な事例や具体的な事例の紹介 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の情報を提供する <p>【共通する方針】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生との信頼関係を構築する ・見通しを立て、集中力と理解力を高める ・授業内容の理解度を高め、授業目標達成度を上げる ・授業の活性化を図り、学修成果の獲得を目指す ・学生の理解度の把握と授業改善 ・栄養士の職業理解と夢の実現への後押し
<p>4.教育改善と成果</p> <p>学内外での教育活動、委員会活動、FD 活動で行ってきた改善及びその成果</p>	<p>授業評価アンケート結果を参考にして授業内容・方法を改善している。アクティブ・ラーニング推進報告書に授業の実践報告を投稿し、授業方法の振り返りや改善をしている。また、学内 FD 研修会、授業公開・参観に参加し、授業改善に努めている。</p> <p>(公社) 広島県栄養士会の専門員の活動及び研究会に参加し研鑽に努めた。</p> <p>成果例：学生による授業評価アンケート、授業担当者間評価、令和 3 年度 (公社) 日本栄養会長表彰 (25 年等業務貢献者)、令和 4 年度 広島文化学園嚶鳴教育表彰</p>
<p>5.教育実践(資料等)</p> <p>シラバス、テキスト、配付物、小テスト、web の活用 (C-Learning を含む)、アクティブラーニング実践報告等</p>	<p>シラバス作成</p> <p>毎回の授業資料、C-Learning (授業資料、協働板、小テスト、アンケート、レポート) の活用</p> <p>アクティブ・ラーニング推進報告書・FD 活動報告書：授業での実践例の報告 (平成 29～令和 2 年度、令和 5 年度)</p> <p>アクティブ・ラーニング研修会・FD 研修での実践報告：C-Learning の実践事例を発表した (平成 29,30 年度、令和 5 年度)</p> <p>祇園パセリのおいしいレシピ：卒業研究の取り組みを小冊子にまとめた (令和 3 年)</p>
<p>6. 授業改善の取組み</p> <p>前年度授業評価アンケート結果から担当授業における自己点検評価及び授業改善計画等</p>	<p>授業満足度は全科目 4.5 以上であった。教材ではパワーポイントの資料がわかりやすかったとの意見が多く、CL 教材倉庫、協働板、レポートの活用も有効だったと考える。講義科目の予習・復習時間が少ないことが課題だったため、R5 年度より試験対策用のノート作りを試みたことで、予習・復習の時間が 1.90 と全学平均 (前期 1.65、後期 1.71) より高くなった。今後も続けたい。</p>
<p>7. 今後の目標</p> <p>目標に対する今後の自分の課題、解決方法、計画等</p>	<p>多様な学生に対応するため学修成果に繋がるアクティブ・ラーニングの方法を検討し実践すること、「栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム」の理解をすること。</p> <p>FD 研修会や各種研修会へ参加し実践していきたい。</p>

HBG 版 ティーチングポートフォリオ(R5 改定版)

1.基本情報	名前	岡田正浩
	学部 学科	広島文化学園短期大学 食物栄養学科
	職名	教授
	在籍年数	16年
	教育年数	26年(フルタイム)
	専門領域	生物学、健康科学
2.教育の活動 最近3年間の担当科目	<p>短大共通教養教育科目「SDGs」選択、30人、集中講義、同時双方向 教養教育科目「基礎生物学」選択、50人、講義、同時双方向 専門科目「解剖生理学Ⅱ」栄養士必修・選択、50人、講義、同時双方向 専門科目「解剖生理学実習」栄養士必修・選択、25人(2グループ)、実験・実習、同時双方向 専門科目「生化学実験」栄養士必修・選択、25人(2グループ)、実験・実習、同時双方向 専門科目「セミナーⅠ・Ⅱ」「卒業研究」卒業必修、10人、同時双方向</p>	
3.教育の理念・目的、方法 なぜ行っているのか(自らの信念、価値観、目指すもの等)、教員としての目標、学生に求めること(期待)等 共通する方法や方針、独自の工夫等	<p>理念・目的</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教養教育、専門教育を通して栄養士に必要な基礎知識を養い、幅広い現場で通用する人材を育成する。 2. セミナー、研究等の少人数教育を通して、問題解決能力を中心に社会人として必要な力を育成する。 <p>方法・工夫</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各授業において、視聴覚教材を利用して理解を深める機会を設ける。(基礎生物学、解剖生理学Ⅱ、解剖生理学実習、生化学実習) 2. 講義、実験・実習では、コメントシートも用いて授業改善に役立てている。(基礎生物学、解剖生理学Ⅱ、解剖生理学実習、生化学実験) 3. 個人面談、ボランティア活動により、基礎能力だけでなく、社会人として成長できるようサポートする。(セミナー、卒業研究) 	
4.教育改善と成果 学内外での教育活動、委員会活動、FD活動で行ってきた改善及びその成果	<p>教育改善</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義科目では、教科書を指定し、内容をしっかり説明する。 2. 実験・実習では、毎回プリントを配布し、授業の目的、内容、実験方法等を丁寧に説明する。 3. 各授業において、視聴覚教材を利用して理解を深める機会を設ける。 4. グループディスカッションや発表の機会をなるべく設定する。 5. 講義、実験・実習では、課題提出を実施して振り返りを行う。 6. 全ての授業内容が、栄養士とつながりが持てるように工夫する。 7. セミナー活動では、基礎能力だけでなく、社会人として成長できるよ 	

	<p>うサポートする。</p> <p>8. 卒業研究では、テーマの設定、研究方法・材料、結果、考察のアドバイスし、研究活動全般をサポートする。</p> <p>委員会活動等</p> <p>令和5年度は、短期大学教務次長として学科ポリシーの検討、カリキュラム改善、シラバス、時間割等の管理、授業改善に関して学生・教員との意見交換を実施。また、短期大学FD委員長として授業参観の実施、授業評価アンケート実施、アクティブラーニングの推進、非常勤講師との意見交換会実施、全学FD研修会実施に携わる。</p> <p>成果</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内で視聴覚教材を導入及び、主要項目ごとの小テスト（振り返りテスト）により、学生のからの感想に「教材を見ることで、興味が湧いた」「理解することに役に立つ」など前向きなコメントが多く、授業評価アンケートの満足度も高くなった。 2. 授業後コメントシートにおいて、「自己評価」や「栄養士との繋がり」、「理解度」から学生の反応を見ることができ、授業設計にすぐに役立つコメントを得やすくなり授業改善に役立っている。 3. 授業評価アンケートの満足度が高く、卒業時の満足度調査についても高評価であり、短大全体の教育力をアップする取組みとなっている。
<p>5.教育実践(資料等)</p> <p>シラバス、テキスト、配付物、小テスト、webの活用(C-Learningを含む)、アクティブラーニング実践報告等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎生物学 テキスト「ZEROからの生命科学」(南山堂) 視聴覚用プリント、C-learning 振り返りアンケート 2. 解剖生理学Ⅱ テキスト「解剖生理学」(羊土社)、小テスト 視聴覚用プリント、C-learning 振り返りアンケート 3. 解剖生理学実習、生化学実験 全授業用プリント、課題プリント 小テスト、視聴覚用プリント、自己点検・授業評価を含むコメントシート (C-learning) 4. SDGs オンデマンド配信されている教材活用 (SDGs/TV等)、フィールドワーク、視聴覚用プリント、自己点検・授業評価を含むコメントシート (C-learning)
<p>6. 授業改善の取組み</p> <p>前年度授業評価アンケート結果から担当授業における自己点検評価及び授業改善計画等</p>	<p>授業評価アンケートの個人目標である、満足度4.0以上については、全ての科目で達成された。しかし、教養科目や講義系科目については、理解度や授業環境への配慮等で改善を求める意見が散見された。学生の集中力持続及び内容の理解を確認について授業改善を行う予定である。</p>
<p>7. 今後の目標</p> <p>目標に対する今後の自分の課題、解決方法、計画等</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対面授業を基本とし、対面でもオンラインでも使える教材研究を継続しながら授業改善を図る。 2. 高い実践力も持った学生育成の充実。

	3. 短大教育力の組織的強化
--	----------------

HBG 版 ティーチングポートフォリオ(R5 改定版)

1.基本情報	名前	萱島隆之
	学部 学科	食物栄養学科
	職名	教授
	在籍年数	13 年
	教育年数	13 年
	専門領域	食品学、食品衛生学
2.教育の活動 最近 3 年間の担当科目	科目名／開講期／受講者数／備考 食品学Ⅰ／1 年次前期／40-50 名／必修科目（栄養士必修） 食品学Ⅱ／1 年次後期／40-50 名／必修科目（栄養士必修） 食品衛生学／1 年次後期／40-50 名／必修科目（栄養士必修） 食品学実験／1 年次前期／20-25 名（2 グループ）／選択科目（栄養士必修） 食品衛生学実験／2 年次後期／20-25 名（2 グループ）／選択科目（栄養士必修） フードスペシャリスト論／2 年次前期／20-25 名／選択科目 食品流通論／2 年次後期／8-10 名／選択科目 セミナーⅠ／1 年次前期／8-13 名／必修科目 セミナーⅡ／1 年次後期／8-13 名／必修科目 卒業研究／2 年次通年／8 名／必修科目	
3.教育の理念・目的、方法 なぜ行っているのか（自らの信念、価値観、目指すもの等）、教員としての目標、学生に求めること（期待）等 共通する方法や方針、独自の工夫等	栄養士資格修得に必要な単位科目が主体で、栄養士として備えるべき基礎知識を身に付け、社会に出て通用する人材を形成することを目的としている。調理や栄養は科学(化学)だという理念から、理系科目を不得手とする学生に、食品成分が化学成分であるという概念を持たせ、必要な知識を学ばせる。 栄養士が給食施設の厨房に入った際に、調理技術だけでなく食の安全安心面から食品衛生が第一であることを理解させるために、なぜ衛生知識が大事かを学ばせ、栄養士は人の命を預かる仕事であることを認識させることとしている。知識だけでなく、なぜそうなるのかという実験を通し、授業の内容を再認識させることに努めている。 知識を得るためにはくり返しが必要であることから、授業の単元終了時には小テストやレポートの提出、次の授業始めには前回の復習からスタートすることとしている。	
4.教育改善と成果 学内外での教育活動、委員会活動、FD 活動で行って	各種委員会には積極的に参加、与えられた仕事は、すべて遂行した。 学内 FD 研修会等への参加に努めている。	

きた改善及びその成果	
<p>5.教育実践(資料等) シラバス、テキスト、配付物、小テスト、web の活用 (C-Learning を含む)、アクティブラーニング実践報告等</p>	<p>シラバスは見直しを行い、より実践的な授業に努めている。 授業は、テキストを使用しながら配布プリントにより進めているが、暗記科目が多く、読解力に乏しく理解できない学生も多々いることから、面倒でもパワーポイントを作成し、目で理解、記憶できるようにしている。また、授業終了時には C-Learning の小テストで復習させ、当日の授業内容から知り得た事象、重要なポイントなど気づいた点をレポートにて報告させている。</p>
<p>6. 授業改善の取組み 前年度授業評価アンケート結果から担当授業における自己点検評価及び授業改善計画等</p>	<p>授業評価アンケートではすべての科目において目標である 4.0 を超えている。特に改善の必要はないとしている。しかしながら、一部には授業が全く理解ができないため、授業評価を低くしている傾向にある。わかりやすい授業には常に取り組むべきである。</p>
<p>7. 今後の目標 目標に対する今後の自分の課題、解決方法、計画等</p>	<p>学生の学力向上が喫緊の課題と思われる。栄養士実力認定試験やフードスペシャリスト資格認定試験での実力アップをしたいと考えている。 そのためには、学生にやる気を出させることが重要で、担当科目の総復習となる試験対策（担当科目）を行う。 食品のプロである栄養士は原材料やアレルギーなど食品の表示が読める人材が必要だと思い、食品表示検定の受験を勧め、毎週の勉強会を開催している。参加者は意欲的で真剣に取り組んでおり短時間での効果が出ている。</p>

HBG 版 ティーチングポートフォリオ(R5 改定版)

1.基本情報	名前	村田 美穂子
	学部 学科	食物栄養学科
	職名	教授
	在籍年数	19 年
	教育年数	19 年
	専門領域	調理学
2.教育の活動 最近 3 年間の担当科目	科目名／開講期／受講者数／備考 調理学／1 年次前期／41-55 名／必修科目 調理実習（初級）／1 年次前期／41-55 名／選択科目（20-25 名×2 クラス） 調理科学実験／1 年次後期／41-55 名／選択科目（20-25 名×2 クラス） 教育方法論／1 年次前期／3-5 名／選択科目 学校栄養教育論／1 年次後期／3-4 名／選択科目 栄養教育実習／2 年次前期・後期／3-4 名／選択科目 教職実践演習（栄養教諭）／2 年次後期／3-4 名／選択科目 セミナーⅠ／1 年次前期／5-12 名／必修科目 セミナーⅡ／1 年次後期／5-12 名／必修科目 卒業研究／2 年次通年／4-10 名／必修科目 特別研究Ⅱ／専攻科 2 年次通年／1 名／選択科目	
3.教育の理念・目的、方法 なぜ行っているのか（自らの信念、価値観、目指すもの等）、教員としての目標、学生に求めること（期待）等 共通する方法や方針、独自の工夫等	食物栄養学科の給食の運営に関する専門科目である調理学を中心に講義及び実験実習を担当している。栄養士に必要となる専門的な基礎知識や調理技術を習得させるため、調理学では調理で必要となる基礎知識を講義で解説し、学んだ内容を調理実習や調理科学実験を通して体験させ、学んだ理論と実験実習が連動した学びとなるよう工夫している。 調理学では、アクティブラーニングの手法を取り入れ、学生一人ずつが課題発表をする機会を設けている。また、C-Learning 内の協働板やレポート等にコメントを提出させ、学生の興味や関心、授業の理解度を把握することにより、学生の状況を把握し、授業展開に反映させるよう工夫している。実験実習では、グループワークを中心に体験学習を通して、学生達のコミュニケーション力や主体性が身に付くよう指導している。また、レポート提出を課しており、レポート作成についての指導を行っている。 調理技術に不安を持つ学生を対象に、授業外で個別指導のための講座（チャレンジ！調理講座）を設け、ひとり一人の調理技術向上のための支援を行っている。 教職科目では、栄養教諭に必要な知識等について指導している。特に 2 年次の栄養教育実習（学外）において研究授業を行うため、1 年前期か	

	<p>ら教材研究や学習指導案の作成、学内模擬授業等を行い、食育指導の実践力が身に付くよう工夫している。</p>
<p>4.教育改善と成果 学内外での教育活動、委員会活動、FD 活動で行ってきた改善及びその成果</p>	<p>授業参観での研修及び学生による授業評価の結果を参考にして、授業内容・方法を改善している。学内の FD 活動にも積極的に参加している。 成果例：令和 2 年度（一社）全国栄養士養成施設協会の栄養士養成施設教員表彰、令和 4 年度栄養士養成成功労者厚生労働大臣表彰・広島文化学園職員表彰、授業評価アンケート結果等</p>
<p>5.教育実践(資料等) シラバス、テキスト、配付物、小テスト、web の活用 (C-Learning を含む)、アクティブラーニング実践報告等</p>	<p>シラバスに沿って、計画的に授業を実施している。 授業では、資料・p p t 等資料を活用しての講義や実習実験を展開している。C-Learning を活用し、授業資料や学生の課題発表資料などを随時掲載している。また、授業後の振り返りコメント等をレポートに報告させている。実習や実験では、実習記録簿を毎回記入し提出させており、学生達の授業への感想や内容についての理解を把握している。</p>
<p>6. 授業改善の取組み 前年度授業評価アンケート結果から担当授業における自己点検評価及び授業改善計画等</p>	<p>前年度の授業評価アンケートの結果、前期・後期とも全科目において目標の 4.0 以上を達成することができた。限られた授業時間内で、より興味を引き出し、理解を深められる内容となるように工夫した。学生達が楽しく学び、得られた知識や技術で自分の成長が自覚でき、授業満足度につながるよう、指導方法をさらに工夫したい。</p>
<p>7. 今後の目標 目標に対する今後の自分の課題、解決方法、計画等</p>	<p>多様な学生に対する講義内容の工夫、教材研究及び授業展開の改善 学生の理解にあった、より具体的な指示や説明を行うことにより、学生の主体的な学びに繋がるような指導方法を工夫する。</p>